



大すきいっぱい土の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和4年4月15日
土井首小学校
文責：校長 江原芳樹
第2号

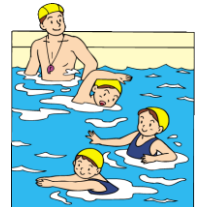
上五島で勤務していた時、地域の方から教えてもらった話があります。昔、漁師は獲った魚をトロ箱に入れるとき、一匹だけ違う魚を入れていたそうです。「違う魚がいると、緊張があって鮮度が保たれるとき。」と。

「緊張が鮮度を保つ」という意味は、新学期に感じるところです。新しい仲間、新しい先生、新しい教室との出会いは、緊張感をもたせ、新年度への意欲（鮮度）を保たせているからです。これからは、次第に馴染みながら、それぞれのカラーを出していくことになるでしょう。

1学期の主な行事

1学期の主な行事についてお知らせします。なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、変更がある場合もありますのでご了承ください。その際は、文書等にてお知らせします。

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| 4月19日（火） | 全国学力調査（6年）、県学力調査（5年）、市学力調査（3・4年） |
| 4月25日（月） | 4月28日（木）までスポーツテスト実施期間 |
| 5月22日（日） | 運動会 （予備日：5月29日） |
| 5月23日（月） | 代休日（5月29日実施の場合、5月30日を代休日） |
| 6月13日（月） | 水泳指導開始 |
| 6月19日～25日 | 土の子の心を見つめる教育週間 |
| 6月20日（月） | 授業参観・学級懇談会（低学年） |
| 6月22日（水） | 授業参観・学級懇談会（高学年） |
| 6月24日（金） | 授業参観・学級懇談会（中学年・ふれスマフレステ） |
| 6月25日（土） | 土曜授業（午前4時間） |
| 7月4日～8日 | 第1学期家庭学習強化週間 |
| 7月20日（水） | 第1学期終業式 |



※運動会の参観については、感染状況が改善されていないことから、人数の制限を行っての参観となります。詳しくは後日お知らせします。

お願い

昨年度、避難訓練と臨時休校時の課題引き渡しの際、丸亀製麺跡地を学校として使用しました。その際、土地所有者の方に学校としての使用をご理解いただき、ご厚意で使用する許可をいただいています。その後、丸亀製麺跡地に無断で駐車等の利用があったとの情報がありました。保護者の皆様が使用したとは考えていませんが、来校時の駐車場所として使用することのないようお願いいたします。

引き続き感染対策が必要です

現在、長崎県の感染段階は県全体で「レベル1（注意報発令）」です。学校における「新生活様式 Ver7」の学校の行動基準における感染状況も、長崎市は「レベル1」となっています。しかしながら、4月に入り、長崎市においては新規感染者が100人を超える日が続いています。また、直近1週間の新規感染者数は増加傾向にあり、感染状況が改善されているとは言えません。

必要以上に恐れる必要はありませんが、基本的な感染防止対策の徹底は、今後も継続して取り組んでいくことになります。

そこで、感染対策について、次のことをお願いします。

- マスクはできるだけ不織布マスクを持たせてください。
 - ランドセルに予備のマスクを2～3枚を持たせてください。
 - 帰宅後、または休日など、友達と遊ぶ際もマスク着用を徹底してください。
 - 外から帰ったら、しっかりと手洗い・うがいをさせてください。
- 学校においても、同様の指導を徹底していきます。



また、新型コロナウイルス感染症がオミクロン株に移行してから、濃厚接触者の決定ガイドラインが下記のように変更されています。

【濃厚接触者の基準】

次の①及び②のどちらにも該当する場合、濃厚接触者とする。

- ① 陽性者とお互いにマスクなしで、手が触れる距離（約1m以内）に15分以上いた。
- ② 次のいずれかに該当する行動をした。
 - ・ 会話 ・ 飲食（黙食ができた場合を除く）
 - ・ 換気が悪い室内に一緒にいた ・ 車と一緒に乗った

なお、ガイドラインの変更に伴い、濃厚接触者の可能性がある場合には、メールメイト等でお知らせしますが、それ以外においては、お知らせすることはありません。感染者への配慮も含めて、ご理解ください。

《校長室散歩道 R4 版 No.2》

5年程前のお正月の時期のことです。

諫早のある食事処に寄った時、ちょうど両隣に、同じような家族構成の家族が入ってきました。おそらく大学生ぐらいだと思われる子どもがいて、帰省していたのでしょう。どちらの家族も両親とおばあちゃんが同席していました。その大学生と思われる子は、入店してきたときは、どちらも手に携帯（スマホ）をもっていました。

一方の子は、席に着くと同時に携帯をバッグに仕舞いましたが、一方の子は、変わらず携帯をいじったままでした。バッグに仕舞った子は、前に座ったおばあちゃんと久しぶりの会話を楽しんでいるようでした。しかし、携帯から目を離さない方の家族は会話もありません。

コミュニケーションツールとしての携帯（スマホ）が、目の前の大切な人とのコミュニケーションを妨げている、何とも象徴的な光景でした。